

著名建築家とのコラボレーションによる長屋開発で、2年連続“グッドデザイン賞”受賞 都心の旗竿敷地をデザインで高付加価値に —FARE 代々木上原—



株式会社アスコットのデザインコンパクトマンション「FARE（ファーレ）代々木上原」が、2017年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞いたしました。FAREシリーズでは昨年度の「FARE 祐天寺」に続き2度目、物件としては通算8度目の受賞となります。

【本物件の特徴】

大都市には旗竿^{（はたざお）}地が多くあります。このような敷地は四方を建物に覆われるため、開口部を設置しても住み手がカーテンなどで閉め切り、息苦しい印象となるのが通常です。そこで本物件は、室内の天井高を「1階 3.7m、2階 2.4m、3階 3.0m」と上部方向へ引き伸ばし開口も床から天井まで最大限設置することで、開放感溢れる空間を作り出しました。1階には天井高を活かしてロフトスペースを設け、キッチン・バスルーム・収納はコアスペースとして集約しています。2・3階にはメゾネットを採用。2階は寝室・バスルーム・トイレをまとめたプライベート空間とし、3階は風通しのよいLDKに仕上げました。

また、立地や住環境の良さを保ちながら洗練された都心のライフスタイルを楽しめる長屋^{（タウンハウス）}において、デザイン力でさらに豊かな居住性を生み出し、住み手のクリエイティビティを刺激する可能性を提案したことを評価されての2年連続受賞は、大変意義深いと考えております。

* 旗竿地：道路に接する間口が狭く、奥に広がった形状の敷地。その形が竿のついた旗に似ていることから名称がついた。

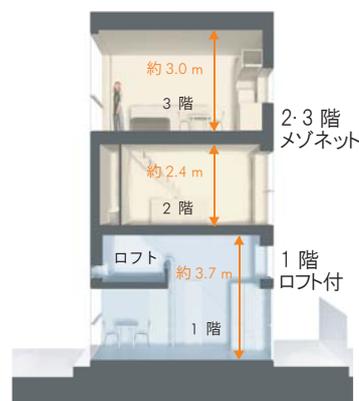
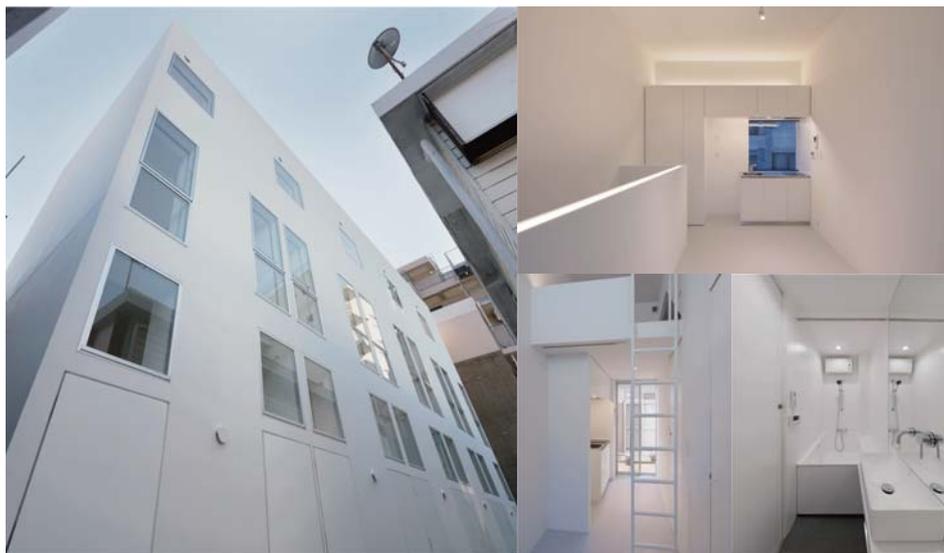
【グッドデザイン賞 審査委員の評価コメント】

外観・内観共にミニマルなデザインで極めて端正にまとめられており、優れたデザインの集合住宅となっている。都心の建込んだ立地において「開放性とは何か」という問いを自らに課し、丁寧に検討されている。その結果が階高の設定や開口部の位置に表現されており、このような立地で豊かな住空間を獲得するための一つの建築的解法を示したものとなっている。

建築家 小川晋一
Shinichi Ogawa



2001年ロンドンで開催された“Japan Year 2001”建築展に日本を代表とする16人の建築家として参加。ニューヨーク、ロンドン、ミラノ、ロッテルダム、グラスゴー、香港など各国で展覧会を開催。英国誌『10×10』（世界の建築家100人）や国内誌『AERA 日本のデザイナー100人』に掲載。その他国内外で受賞多数。



FARE 代々木上原

所在：東京都渋谷区富ヶ谷 2-18-19
交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅徒歩約11分
構造：鉄筋コンクリート造（長屋）
規模：地上3階建
戸数：10戸

建築面積：236.37㎡（71.50坪）
住戸専有面積：14.34（+ロフト6.30）㎡～32.94㎡
竣工：平成28年10月
設計：株式会社小川晋一都市建築設計事務所
施工：株式会社Masse Japan Enterprise